

由美さんの「こころ」 が動き出す...

社会福祉法人ウェルネスケア
特別養護老人ホーム いづテラス
久保 佐知子

発語や表情の変化に乏しい 利用者に対して

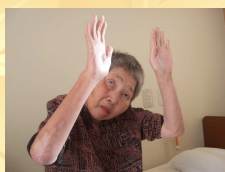
- 意思疎通が困難な利用者だから……

あきらめ



- 介助に必要なコミュニケーションは取っていても、あいまいな対応だった。

事例紹介



職員の動作に合わせて
真似はするが、表情は乏しい

- 昭和15年満州で生まれる。
- 5歳の時流行の熱病にかかり、脳髄膜炎を起こす。
- 知能・聴覚・言語に障害が残る。
- 就学経験はなく、社会との関わりは少ない生活が続いていた。

自分の世界に生きる

周りの人や様子に関心を示す事はなかった。

感情が表れるのは、「不快」と訴える時だけで、「喜び」や「楽しさ」を表現する事はなかった。

由美さんが不快を感じないように、習慣を知ることから始めた。

由美さんの一日



食事と排泄の繰り返し

- 7:00 朝食(2時間~3時間)
- 10:00 お茶
- 11:00 トイレ(30分程度)
- 11:30 休息
- 12:00 昼食
- 14:00 トイレ
- 15:00 おやつ
- 16:00 トイレ
- 16:30 休息
- 18:00 夕食
- 21:00 トイレ
- 21:30 就寝

由美さんに合わせた介助

いくつかの決められた方法が見えてきた。

- ① 行動ひとつにも、流れがある。
- ② 物品の置き場所、布団のたたみ方など使いやすく、落ち着く方法がある。

方法を守っていれば、大きなトラブルもない。
それは、由美さんにとって混乱が少なく安心できる
対応だと思い込んでいた……。

転機



- 『他者に関心のない由美さん』と決め付けていた



- 子供に対しての優しさ、遊んであげたいという思い



- 今まで見ようとしなかった別の表情がある



変化

- 2回目の訪問
・自ら職員の手を取り、子供の後を追うように歩き始める。

・ボールを渡すときりに子供に「オー、オー」と見せ、手招きする。



由美さんをもっと知りたい・・・

- 入所前の生活ぶりを改めて聞く。
・由美さんと妹達との別れがあった事。ご両親の由美さんに対する思いを知る事ができた。

・入所までの人生で、家族以外と過ごした経験や調理・外食するといった機会が少なかった事を知った。

由美さんが他者に関心を持たない様子は、**障害があるから**と言うよりも、**経験が少ないから**ではないと考えられた。

私達が変わる事で・・・



由美さんの変化



- 本来持っていた感情がごく自然に現れるようになった。
- 「これ、だめ。」「おわった。でた。」など言葉の表現が広がった。
- 他者の動きを目で追い、隣の利用者にティッシュを差し出す。
- ところからの「笑顔」がそこにあった。



この笑顔のために・・・



まとめ

通り一遍の介護をしていた為に
その難しさにすら気がつかなかった。

由美さんの歩調に合わせてゆっくりと
さまざまな経験ができる場面を作っていきたい。

『**こころ**』が動き出すような関わりを
続けていきたい。
ご静聴ありがとうございました。